

令和5年度栃木県立馬頭高等学校 第2回学校運営協議会（司会：主幹 議事録：田中）

I 日 時 令和5年9月20日（木） 15：00～16:55分

II 場 所 馬頭高校会議室

III 参加者 委員12名出席（欠席1名）

県教委2名出席

馬頭高校職員6名出席

那珂川町職3名傍聴

報道関係者2名 以上 総数25名

【議事録】

1 開会 馬籠主幹

2 若園会長あいさつ

〇2時間の会議であるが、内容が盛りだくさん。慎重審議をお願いしたい。コロナウイルス感染症が再流行、注意を払いたい。

3 小島校長あいさつ

〇生徒、職員、それぞれ何名かコロナウイルス感染症に罹患しているが、学級閉鎖までには至らず、行事の多い2学期を教育活動を止めずにやっていきたい。9月16日から就職試験が始まった。進学就職比率が今年は5：5。6月からこれまでの主な生徒の活躍としては、水産科3年大山さんが全国水産海洋高等学校意見体験発表会で最優秀を受賞し、10月末の福井県で行われる全国産業フェアに出場が決定。素晴らしい発表だった。レスリング部では普通科2年神長さんが鹿児島特別国体出場を果たした。また、ボランティア部も町の協力を得ながら種々の活動を行っている。スクールポリシーについては11月に県との調整を行いながら、来年度には決定することになる。第3期県立学校再編計画（案）については、現時点でも案の状態から変化なし。令和6年度県立学校入学選抜の定員数の見込みが公表され、来年度本校普通科1学級を含め、全体で10学級の減となる見込みである。

4 議事

（1）学校魅力化プロジェクト

◇重点目標1（安心安全な学習環境。個に応じた進路実現）

①通級による指導について

[担当長山からの説明]

本校では今年度より通級による指導が実質的に始まったが、1学期は指導に向けた研修の受講や先進校の見学等を通じて、教職員への周知を行うとともに、生徒の実態把握のため、担当教員を中心とした授業見学・教科担当やクラス担任との情報共有を行った。その中で生徒の障害や特性に対する合理的な配慮を検討し、教職員への周知をすることで、通常学級内で生徒の学習上または生活上の困難さを支援・指導している。本校では、少人数であることをプラスにとらえ、全職員が1人1人の生徒の現状に寄り添ったきめ細やかな支援・指導が日常的に行われている。

その中でも、障害による困難に対する指導が継続的に必要と判断した場合、生徒・保護者との合意形成のうえ、放課後の時間を使い、プレ通級による指導を行うこととしている。夏休み期間中の保護者懇談や2学期の生徒面談を通じて指導への希望を伺ったところ、2名の生徒・保護者から申し出があり、2学期からプレ通級による指導を開始した。面談を通して、生徒が身に付けたい力を明確にし、個々に応じた指導を展開していく。今後も生徒・保護者との合意形成を図りながら、必要に応じ随時校内委員会を開き、指導を始めていくこととしている。

【益子明委員】前進してよかった。先進校では、通級による指導をする教室名を親しみやすい名称に変えている。本校ではどう考えるか。また、対象生徒の学級における困りごとについて、クラスメイトによる助け合いが有効と考えられるが、それはどのように行うか。

【担当：長山】現段階として生徒相談室を使用しやすいように整備した。クラスへの周知も含め、個々に応じたより良い支援を行っていききたい。

【益子明委員】クラス全体への理解、共生社会という通級の目指すところへ、ぜひ進めていただきたい。

【若園議長】かわいそうではなく、助け合っていこう、という多様性を理解する取り組みをお願いしたい。

②公営塾（仮称）について

〔担当小高からの説明〕

昨年度検討してきたものを改めてゼロベースで検討を進めた。資料の通りで進めていただく方向で考えている。目的は個々に応じた自主的な学習を支援する環境の提供。生徒が自由に参加しやすいように塾という名を変え、自主学習をメインとして、那珂川学などの探究活動の内容や各種コンテストに向けた学習等に活用できればと考える。場所は町の施設を利用させていただければと考えている。学校側の窓口は地域協働部が対応する。

【渡辺委員】イメージとして人数等の規模は？

【担当：小高】30人は多い。自由参加で10人～20人を想定している。

【若園議長】開始時期のめどは？

【担当：小高】町との協議となる。現段階としては未定だが、できることから始めていきたい。

◇重点目標2（安全安心な教育環境。地域とともに歩む学校づくり）

①広報活動について

〔担当馬籠からの説明〕

リーフレットとクリアファイルをPR用に作成した。また、町内の中学校をはじめ20校程度を想定し、近隣の中学校へ10月以降本校の紹介を行う予定である。

【益子委員】保護者が馬頭高校PTAのフェイスブックアカウントをつくってよいか。小中学校にはある。

【若園議長】何ができるかを図ってほしい。生徒は圧倒的にスマホの利用が多い。生の声を聴くことは重要だ。

【小島校長】ホームページが中心となり、SNSは本県の県立高校は難しい。卒業生のSNSが情報提供に役立っているケースもあり、何ができるかは今後相談させていただければと思っている。

【若園議長】公式でないものは可能ではないか。自治体を勝手に支援することはみられる。

【渡辺委員】外部の人がSNS上アカウントとして取り上げるのは制限するのか。

【校長】あからさまに悪意のあるものならば、問題とするが、それ以外のものは特に学校として行ってはいない。

【若園議長】口コミサイト等、悪口は書きやすい。

②一日体験学習について

〔担当田中からの説明〕

一日体験入学の内容について報告。参加校と体験者数の大幅な増加は他地域からの希望者増による。受験に反映してほしい。

【担当：小高】一日体験の参加生徒・保護者アンケートの結果を報告。生徒・保護者のうち、ぜひ馬頭高校に入学したいと答えた方は2/3に満たない。参加者数は上回っているのに、大部分いる「候補のうちの1校」と選んだ生徒が多数あることが注目ポイントである。

【益子明委員】過去には馬頭中、小川中は特別に個別の一日体験学習があったと聞いた。また、中学校での学校

説明会の保護者の参加は可能なのか？

【担当：田中】ここ 30 年では個別の体験学習は行っていない。中学校での学校説明会では保護者の他、先生にも聞いてほしい。

(2) 学校より

①スクールミッション・スクールポリシーについて

〔担当馬籠からの説明〕

本年度スクールミッションが決定し、2 学期中にスクールポリシーの原案を策定し、来年度中に決定する予定である。

②学校の様子（資料について説明）

(3) 第 1 回学校運営協議会議事録（資料について説明）

〔休憩・机移動〕

(4) グループ討論

若園会長より進め方の説明があった。テーマは自由なものであってよい。テーマについての提案がないので先ほどの公営塾・サポートルームの件について、どのようなことを行っていけばよいか、自由なご意見をいただきたい。

◇公営塾の具体的な内容について（2 班に分かれ協議）

A 班

<自主学習は学校でもできるが、どう差別化を図るか？>

(学校) 環境を変えることで更なる学習意欲、自ら進んで取り組む自主性・主体性の向上に期待したい。さらに、授業内容以外の探究活動などについて自主的にテーマを見つけて、課題に取り組む場として活かしてほしいという狙いがある。

<塾運用の頻度や開始時期は？>

(学校) 今年度から始めたい。本格的には来年度になるという見込みで考えている。今年度は、一日でもできる内容のものから始めて、どのくらいの頻度が適切か見定めていきたいと考える。

<町の対応について>

地域おこし協力隊は企画財政課の所属なので、そこで行うものとおもわれる。指導者の動きとかはまだ未定。場所のサポートはしたい。

<これまでの経緯についての確認>

昨年度は、企画財政課露久保さんをお願いして地域おこし協力隊が中心となって実施するという話で進んでいたが、学校内でどう実施すればよいかまとまらなかったと聞いていたので、そこで止まっていた。第 1 回の時はいったんゼロベースという話になっていたので心配していた。露久保さんがそのあたりの流れをよくご存じなので、引継ぎをしっかりと行っていただければと思う。

(学校) 今後、町と協議してどのようにあるべきか、具体的に詰めていきたい。

<サポートルームでできることについてのアイデア>

白相酒造さんや風土記の丘資料館など快く協力していただけるとのご意見もいただいている。集まれる人が集まって支援していく形が良いのではないかな。地域おこし協力隊を中心に高校生が集まれるところを作るところからはじめたい。

(学校) 手をつけられるところから始める。生徒が集まる習慣をつけるところから始めることが大事だと思う。

<サポートルームの開設場所についての候補地について>

旧喫茶店の候補地がある。1 階が車庫、2 階が場所。電気、水道、ガス、トイレはある。Wi-Fi は要望があれ

ば今後整備していく。2階の予定会場は床を張るところから高校生の手を借りて作り上げていくという案もある。

B 班

(学校) 放課後の時間に行われる先生への質問等を超えた学びの場を作っていきたいと考えている。

<活動案について>

水遊園で魚のことをやっているの、水産科の生徒を対象に現場で働いている視点からの話や水産科の課題研究において、教員の専門外の内容等について一緒に研究をしたりサポートすることは可能である。

<サポートルームの開始時期について>

(学校) 今年度プレのような形で立ち上げたい。

<生徒の希望はあるのか>

(学校) 要望を聞いているところではあるが、生徒と一緒にコミュニティーとなる場所作りをしたい。

<利用方法について>

学習や那珂川学について、学べる場になるのはいいことだが、まずは何でもよいので、サポートルームという場所を使用してもらい、役場の担当者が活動内容を生徒の意見を聞きながら作り上げていくのがいいのではない。心の問題やメンタルヘルスなど、なんでもいから行ってみたいと思える場を作るのがいいのでは。

(学校) 何かしらのテーマを設定したい、何をする場なのかわからなくなってしまうのが不安。

<利用のあらまし>

○時間的な制約があると生徒の足が向かなくなるのでは。テーマを決めずに、生徒主体で運営していくのがいいのではないか、そのほうが参加しやすいのではないか、まずは集まってもらうことが重要ではないかと考える。

○運営していくうえではテーマを決めたほうがいいのでは、たまり場になるのが不安。

○ただ集まるのではなく、講師のような人をつける必要があるのでは。

○町としてはサポート体制はできているので、大いに利用してほしい。

○本校の生徒にとってどのようなスタイルが良いのか、学校として次回までに意見をまとめてもらいたい。

(学校) 基本は自習室のような形にして、生徒自ら分からないことを聞くようにしていきたい。サポート室を生徒とともに作り上げていきたいという意向はありがたい。学校でも少人数制で学習をしているが、サポート室が充実すれば個々への指導がより充実するのではないか。ここで出た意見や本校職員の意向等を踏まえ、町と共有しながら進めていきたい。

◇各班のまとめと総括（若園会長より）

委員の皆さんの考えやこれまでの取り組みを今回の会議ですり合わせすることができたことが大きな収穫ではないか。人材は豊富にいる。いろいろなことができる。学べるところから学ぶということで共有できればと考える。

◇地域おこし協力隊石川さん自己紹介・・・現在は学校の外で関われる機会を作っている。これからできることを広げていきたい。

5 その他

【事務連絡】第3回学校運営協議会日程については11月下旬から12月初旬の予定。

6 閉会